

「ちとせ」の味噌カツ

村田憲治@山県高校

■ 美味しい味噌カツとはどんなものか

『ちとせ』の味噌カツ定食は美味しい。

『ちとせ』というのは、サークル例会の昼食時にいつもみんなで行く寿司屋の屋号だ。寿司屋のくせして味噌カツがとびきりうまい。サークルメンバーのほとんどがこの味噌カツ定食(税込み 945 円)を食べる。これが俗に『のらねこ定食』と呼ばれる所以だ。なんてエラそうに言うことでもないって。

ともかく味噌カツの出来不出来は味噌にかかっているのだが、『ちとせ』の味噌カツの味噌は絶品だ。味噌は辛すぎても甘すぎてもいけない。この店の味噌はその絶妙なバランスを保っており、口の中で味噌の風味と抑制の利いた甘みがほのかに広がる。もはやこれは芸術の域に達していると言えるかもしれない。ってのは大げさかもしれないけど。

他の店で、水様便みたいな(たとえば悪くてごめん)味噌でトンカツの口口モがびしょびしょになってるのを食べたことがあるが、あれはいただけない。せっかくのトンカツが台無しだ。

やはり、トンカツそのものはカラリと揚がっていなければならない。〈カツ〉である限りは、口に運んだときの「サクツ」とした食感がやはり重要なのだ。

昔、タモリが「名古屋には『味噌カツ丼』ってのがあって云々」などと〈名古屋差別ギャグ〉をとばしていたが、ずうっとこの地方に暮らしている僕でも、実際には『味噌カツ丼』というものにお目にかかったことはほとんどないし、食べたこともない。〈丼もの〉というのは、親子丼でもカツ丼でもそうだが、ご飯の上に乗っているのは卵とじの具である。ソーストンカツを丼飯どんぶりめしの上に乗せてって〈カツ丼〉とは呼ばないように、味噌カツを乗せてって〈味噌カツ丼〉とは呼ばない。

この地方の某ファミリーレストランのメニューには「味噌カツなべ」というのがあって、それは深めのステーキ鉄板の上で卵とじトンカツがグツグツしてるモノなのだが、あれをご飯の上に乗せれば〈味噌カツ丼〉にはなるだろう。しかし、それはこの地方の文化ではない。

■ 〈地方〉のサークルで良かった

松尾先生が『ちとせ』の味噌カツを食べながらよく言うセリフに、「僕らのサークルが〈地方〉のサークルで本当に良かったとつくづく思うね。」というのがある。なぜなら首都圏では味噌カツが食えないからだ。ちがうって。

東京に近いところで活動していると、科学技術ナントカ事業団とか、青少年のためのカントカの祭典とかに声をかけられた時、うまく断るのに苦労するだろう、という意味だ。僕にとっては味噌カツの方が大問題なのだが。

いまさら大声で言わなくて、この冊子を読んでくれている方ならお分かりのように、そのテの運動に巻き込まれないように「岐物サ」は慎重に行動してきた。「ヘンクツ」とか「変わり者」とか「田舎者」(これは当たってる)とか言われても、〈路線〉の違いを感じる運動には前向きになれない。「いや～、東京はちょっと遠くて 。どうも申し訳ありませんねえ」という決めゼリフで切り抜けるのだ。一方で宮城県の組合教研から声がかかると、ホイホイ出かけていくんだけど。(笑) 〈地方〉にいと良いことがもうひとつある。「サークルのメンバーが増えない」ということだ。いや皮肉じゃなくて。

今、サークル例会の常連は10人程度なのだが、誰かが持ってきたネタについてゆっくり考えたり話し合ったり実験したりするには、これくらいの人数が限度だろうと思われるのだ。

「集まった人数と満足度は反比例する」というのは、サークルで最近発見された法則だが、子どもたちを集めて催す「科学広場」でもそれは云える。科学をほんとうに楽しむには、先生1人あたり子ども5～6人が限度だ。何千人も何万人も集まったら、お互いに疲れるだけだ。

「とにかくあんまり人を集めないようにしてください」というのが僕たちの口癖になっている。その意味はなかなか理解されないようだけど、一度やってみればわかる。教員なら自分の教室を思い浮かべれば分かるはずだ。せつかくの休日にやる「科学広場」なんだから、それくらいの贅沢をしたってバチは当たらないはずだ。そしてそういう贅沢は、味噌カツ同様〈地方〉でしか味わえないような気がする。

■ 松尾先生はカッコいい年寄りになる

ところで、松尾先生が退職だ。ついに岐阜物理サークルにも〈専従〉が誕生するのだ。無給だけど。

サークルのみんなも毎年少しずつ歳をとっていく。でもどうせならカッコよく歳をとりたいたいものだ。松尾先生は間違いなくカッコいい年寄りになる。松尾先生は岐阜物理サークルにとっての新しい地平を切り開いてくれるに違いない。もう学校なんか縛られないで自由に動き回れるのだ。松尾先生が、退職後に備えて蔵を改造し、準備してきた「のらねこサティアン」(?)もついに始動の時がきたのだ。おお、なんだかわくわくしてきた。10年後の岐阜物理サークルっていうのはどうなってるんだろうか? あとかたもなく消えてたりして。(笑)

まあ、そのうちには消えてなくなるんだろうけど、それはそれでいい。なんといっても、とりあえず心配なのは例会の昼食だ。松尾先生が退職したら、各務原東高校で例会ができなくなる。ということは「ちとせ」の味噌カツが食えなくなるではないか。それは困る。

こうなったらサークルの誰かが各務原東高校へ転勤するしかない。僕は異動希望を出した。校長との面談では、あれこれと理由を並べ立てて「各務原東高校へ行きたいです」と言った。味噌カツのことは黙っていた。あたりまえか。